

戸十和田駅 応援隊 あいさつ



戸十和田駅応援隊 隊長

藤 一男 さん

— 我が愛する七戸町へ

夢であった新幹線が七戸へやってくる。平成22年10月、小又七戸町長の呼びかけで「七戸十
応援隊東京会」が設立された。指名された隊員13名が日本橋小舟町にあるラ・フェニーチェに
応援隊と染め抜かれた半纏を着て、我が愛する七戸への応援決意が交わされたのだった。

22年12月4日の東北新幹線開業の始発列車に隊員2名が招待された。以来、東京応援隊は
フォーラムで開かれた「青森人の祭典」の「七戸物産展」に参加し七戸を応援した。また、東京の
で開かれた「駅弁大会」に参加「さくら弁当」も売った。あるときは町主催の「七戸モニターツアー」
集めて参加した。隊員それぞれが小団体を組んで「七戸まつり」や「下北観光」を楽しんだことも
ふるさとの駅を往来する人の数は上々と聞いている。よかったと胸をなでおろしている。

この応援隊の活動を支援してくれたのが、町の観光課と、七戸町雇用創造協議会の若い事務局
であった。

ところが、その事務局がこの3月任期満了で解散になるという。町が十分活性化されたのである
私は遠くからふるさとを眺めていて、七戸・十和田・下北観光の窓口駅としてこの駅が多くの人々
渡ったのだろうか心配している。これからが大事なのではないだろうか。観光施設をもっと増や
つもりはない。「七戸町のすばらしさ」をもっと作りこむ必要があると思う。

私は、「七戸人のもてなしの心」こそふるさと活性化の原点であると信じている。町民の一人ひと
な「もてなしの心」をもって来客を迎えるならば人は集まると信じたい。客をもてなす店に人が集ま
のかなう町だからこそ人が集まると思う。町中に「もてなしの心」を掘り下げ、培って欲しい。

東京応援隊員の中で、今、こんな意見が出始めている。「応援隊のままでいいのだろうか」と。
今の5倍、10倍大きな「東京七戸会」を作ろうと準備に入ったところである。

最後に、協議会事務局の皆さんにこころから御礼申し上げ、東京応援隊からのご挨拶といたし